

短 報

## 英語多読スタンプラリー2014 根拠と実践 —聖路加コミュニティの英語力向上を図る取り組み—

ハフマン・ジェフリー<sup>1)</sup> 佐藤 晋巨<sup>2)</sup> 中島 薫<sup>3)</sup>

### Justification and Implementation of the 2014 Extensive Reading Stamp Rally —An Effort to Improve English Proficiency in the St. Luke's Community—

Jeffrey HUFFMAN, M. S. Ed<sup>1)</sup> Kuniko SATO, MLS<sup>2)</sup> Kaoru NAKAJIMA<sup>3)</sup>

#### [Abstract]

In the fall of 2014, the St. Luke's International University library, International Affairs Department, and English faculty jointly implemented an Extensive Reading Stamp Rally, which was open to faculty, staff, and students of both the college of nursing and the hospital. This program was grounded in the principles and evidence of second language learning, and it was designed to motivate participants to read in English and to improve their English proficiency. A total of 282 books were purchased and displayed in the library, a seminar on the benefits of extensive reading was held, and prizes and certificates were prepared for participants. Student staff members assisted with the implementation, and a book discussion event was held as part of the program. Sixty people attended the seminar, and there were 63 participants in the stamp rally. Due to the large number of participants and the high potential for improving English proficiency, not to mention the likelihood that this program helps nurture and maintain a sense of community among staff, faculty, and students at both the college and the hospital, this program merits further implementation. Areas for improvement include increasing the number of book discussion sessions and increasing the number of student participants through enhanced outreach activities.

[Key words] library, English proficiency, international, reading, community

#### [要 旨]

2014年秋、聖路加国際大学学術情報センター図書館、国際部及び英語科教員の共催により、大学看護学部学生・教職員および病院職員を参加対象者とした英語多読スタンプラリーが実施された。このプログラムは、第二言語学習における原則と根拠に基づくものであり、参加者が英語で読書する意欲を引き出し、英語力の向上をもたらすよう設計された。合計282冊の購入書籍が図書館に展示されるとともに、多読の効果に関するセミナーが開催され、またプログラム参加者には賞品と修了証が用意された。本プログラムの実施にあたって学生スタッフも支援に加わり、プログラムの一環として読書会が開催された。前述のセミナーには60名、スタンプラリーには63名の参加があった。

本プログラムが大学・病院双方のスタッフと学生からなるコミュニティの醸成に一役買ったこと、プログラムに多数の参加者を集めたこと、また英語力向上の潜在性の高さから、プログラムを継続して実施す

- 
- 1) 聖路加国際大学看護学部 基盤領域 (英語) St. Luke's International University, Social Sciences & Humanities / Fundamentals of Research (English)
  - 2) 聖路加国際大学学術情報センター図書館 リエゾン・ライブラリアン St. Luke's International University Library / Liaison Librarian
  - 3) 聖路加国際大学国際部 St. Luke's International University, International Affairs

受付 2015年10月26日 受理 2015年11月10日

るに値するとの評価を得ている。今後の改善課題としては、読書会の実施回数の増加、働きかけの強化により学生の参加者数を増やすことが挙げられる。

〔キーワード〕 図書館、英語力、国際、読書、コミュニティ

## I. はじめに

聖路加の教職員と学生の英語力アップを目的とした「聖路加英語多読プログラム（以下、本プログラム）」を、図書館、国際部、英語科の教員、そして学生支援スタッフが協力して2014年に開催した。本プログラムの対象者を教職員と学生としたのは、聖路加国際大学（病院）では運営の基本方針の1つに、海外からの患者の受け入れ態勢を整えることを掲げており、職員に語学力向上のための機会提供が望まれていること<sup>1)</sup>、そして、2013年度に本学図書館で実施した学生向けのアンケート調査で3割弱の学生が多言語学習支援について必要と回答していたことがある<sup>2)</sup>。

本報告では、多読の特徴・利点について簡潔に説明したのち、多読プログラムの実施詳細と結果を明らかにし、最後に本プログラムの意義と今後の実施可能性、及びその課題を述べる。

## II. 多読 (Extensive Reading) の特徴

第二言語獲得の領域において、多読 (ER) は近年高い人気を博しているが、その概念自体は1世紀近く存続し続けているものである。多読は教育的背景によって様々な形で定義され、実施されてきているが、その概念を簡潔に一文で表せば「たくさんの量の、やさしい本を、速いスピードで、長期間にわたって、楽しんで読む」ことと言える<sup>3)</sup>。この一文に含まれた各要素について、以下に説明する。

### 1. 楽しんで読む

多読の主な目的のひとつは、英語を読むことに対する読者の態度と感情を向上させることである。教員やプログラム運営者は、多種多様な読者の関心に対応しうる幅広い品ぞろえを提供することに努め、読者は自分にとって関心のある本やジャンルを探すよう勧められる。テストや語彙、文法の勉強、重荷となる宿題などを課すのは避け、読み手が読書を楽しむことに集中できるようにすべきである。さらに意欲を増大させるために、賞や何らかの報奨を提供することや、討議を通じて「読書コミュニティ」という感覚を強めることも効果的であろう。

### 2. たくさんの量を長期間にわたって

たくさんの量の文章を読むということが、多読プログラムにおいておそらくもっとも基本的な側面であるが、多読であると分類されるために最低限必要とされる読書量については、明確に定義されていない。一般的な合意事項として、毎週1～2冊の本を1学期間にわたって読み続けることが、多読による利益を得られる最低限の量とされている<sup>4)</sup>。しかしこれは、本の長さや読み手の読書能力にもよる。肝心なことは、読者にとって非常にたくさんの量の文章（可能であれば週に数千ワード）を読むことである。

### 3. やさしい本

専門家は、一般的に読み手の現在の読書レベルと同じまたはそれ以下の本を読むことを読者に推奨している。読み手が読んでいる文章に現れる95-100%の単語と文法要素をあらかじめ理解していなければならない<sup>4)</sup>。これを簡単に確認する方法は、学生に本の中にある1ページ全体の文章を読ませ、知らない単語を丸で囲わせる。丸で囲った単語が5%以上の場合、もっとやさしい本を選ぶよう勧められるべきである。これは、多読の利益の多くが、読書過程の「流れ」を遮ることなく、早く滑らかに読むことによってもたらされるためである。教員は通例、絶対的に必要のない限り辞書を使うのを避けるよう勧めており、辞書を使うこと自体を禁じる教員もいる。

### 4. 速いスピードで

読書の速さと滑らかさの向上が多読の大きな目的のひとつであることは、大部分の多読研究者が認めるところである。これがやさしい文章を大量に読んだ結果として自然に起こり、学生が特に読書の速さを上げるよう働きかけられているプログラムもある。ある多読プログラムでは、時間制限読み、繰り返し読みやその他、読書の速度を上げるために考案された練習方法を組み込んでいる。

## III. 多読の利点

多読は近年、第二言語獲得領域の研究において、非常に活発なテーマとなっている。医学や科学領域ほど研究デザインが厳密でないため、経験的証拠に基づき強く主張することがまだ難しいところであるが、その証拠の蓄

積と、教育者・研究者の経験と洞察を結びつけることで、多読がもたらしうる以下のような利益につながる。

### 1. 自信と意欲の向上

数多くの研究者が、読む力が弱い場合に陥る悪循環について指摘しており、理解力が低いために読むのが遅くなり、読む意欲が低下した結果あまり読まなくなり、そのことで理解力等々が低いままであると述べている<sup>5)</sup>。読む力が弱い読者は、多読で興味深く優しい文章を読んで読書の成功体験を積み、そうした悪循環から抜け出すことができる。こうした成功体験によって意欲が向上し、よりたくさんの量を読むことにつながるものであり、これらのことが最終的に理解力を向上させる効果がある。結局、教育者・研究者のほぼ全員が口をそろえる持論が「読むことによって読み方を学ぶ」ということである。実際、質的・量的研究とも一貫して、英語の読書に対する姿勢の向上に多読が役立つことを示している<sup>6) 7)</sup>。

### 2. 読む速度と流暢さの向上

読むスピードや読書の流暢さに関する多読の効果についての研究は比較的少ないが、現存する証拠では、多読が読むスピードの向上に役立つことを示している<sup>8) 9)</sup>。読者の読むスピードが増すにつれ、単語単位から句単位の移行に変わり（チャンキング chunking ともいう）、より滑らかに読めるようになる。流暢さが向上することと理解力の向上の間には強い相互関係があるため、流暢さは重要である<sup>10)</sup>。将来的には読むスピードと滑らかさが向上することが多読においてもっとも明確で意義深い利点の一部となるだろう。

### 3. 読む力の向上

大量の文章を長期間にわたって読むことが読書能力と読解力を向上させるということは、ほぼ常識であろう。研究文献においても、このことを裏付ける証拠がみられる<sup>11) 12)</sup>。いくつかの研究では、これは特に読む力が弱い読者に当てはまることを示している<sup>13)</sup>。しかしながら、厳密には読む能力のどの側面が、読書の手法（多読、精読、文法訳読法など）にどの程度依存して向上するかを示すため、さらなる研究が必要である。

### 4. 語彙知識の向上

研究では多読が語彙知識を向上することを示しているが、第一に「語彙知識」が意味するところを定めなければならない。読者が知っている単語の数を量的に増やすことでいえば、多読は時間のかかる非効率な方法である。単語量は、大量の文章に触れた上でのみ、ゆっくりと徐々に増えるものである<sup>14)</sup>。一方で、「語彙知識の深さ」といったものが存在する。文章中において単語を受

動的に理解することは、やや浅い段階にある。より深い段階の理解では、当該単語が他の単語と通例どのように組み合わせられているかがわかり、文章中でその単語を生産的に使用することができ、またはその単語を定義づけることができたりする。新たな単語の獲得数においては時間がかかるかもしれないが、多読が既知の単語の知識を深めるのに役立つとの証拠が明らかにされている<sup>15) 16)</sup>。

### 5. 言語上の中核的能力

いくつかの研究では、多読に起因して英語のライティング、スピーキング、リスニング能力が向上することを示している<sup>17)</sup>。これは、多読が総体的に英語の中核的能力の向上を促すためと考えられるが、既存の量的研究方法論を用いてこのことを証明するのは難しい。

## IV. 聖路加英語多読プログラムの内容

本プログラムの準備と運営は、図書館、国際部、英語科の教員、そして学生支援スタッフ（学部生3名）が協力して携わった。本プログラムは、国内大学図書館における先行事例を参考に、次の4つの要素で構成した<sup>18) 19)</sup>。1つは多読用資料282冊を図書館で提供。2つは多読についての情報を提供するセミナーの開催、3つは多読用資料を読んでスタンプをためる英語多読スタンプラリー、4つが多読への取り組む仲間と出会うためのブッククラブである。

本プログラムで利用する英語多読用資料は、英語科教員が用意した309冊の図書リストを元に、入手可能であった図書282冊を図書館が図書館資料費で購入し、学生支援スタッフが図書館内に多読コーナーを設置した。本の選定にあたっては、参加者の大半が比較的読む力の弱い読者であると見込まれたため、Oxford Bookworms, Macmillan Graded Readers, Cambridge English Readers, Penguin Readers等のシリーズから様々なレベルの本を注文した。想定されるプログラム参加者を踏まえ、ヘルスケアや医療に関連するテーマの本も選択に含めた。女性の登場人物を含む本が多かったものの、全体として幅広いジャンルと話題を確実に網羅することを重視した。

「本格的な」(英語を母語とする聴衆を対象に書かれた)本もいくつか含まれたが、これはヤングアダルトや子供向けのものであった。次の段階では、出版社を横断し書籍をひとつのレベル体系に組織化し参加者に提供することであった。私たちは4つにレベルを分けることとした(初級、中級、上級及び最上級)。本プログラムの学生支援スタッフが書籍をレベルごとに色分けし、図書館の入口近くの特設コーナーに目を引く展示で本を設置した。展示では本の短い要約と「スタッフのおすすめ」の言葉が添えられた。



写真1 (上段) 図書館に設置した本のディスプレイ、(中段) セミナー:「英語の多読を始めてみませんか? やさしい洋書を・すこしずつ。たくさん読む」、(下段) 景品 (バッジとルカコビスコ)

2014年8月25日に Staff Development セミナー「英語の多読を始めてみませんか? やさしい洋書を・すこしずつ。たくさん読む」を大学本館2階ラウンジで開催した。セミナーでは英語科教員が多読に関する講演を行い、学生支援スタッフが本プログラムと多読スタンブラリーの紹介をした。参加者は学生、教職員合わせて約60名であった。参加者アンケートの回答では、53%の参加者がセミナー参加以前に多読について知らなかったが、94%の参加者がセミナーを通じて多読についての理解が深まったと答え、セミナーに参加し多読に取り組んでみたいと思ったと回答した参加者は98%に上った。

英語多読スタンブラリーは、図書館にある多読用資料を読んでスタンプを集め、スタンプの数に応じて景品がもらえるものである。スタンプカードの作成、景品の準備を学生支援スタッフがいき、費用を国際部が準備した。英語多読スタンブラリーに参加する人は、図書館のカウンターで多読用資料を読んだことを自己申告し、読んだ多読用資料のレベルに応じた数のスタンプを名刺大のスタンプカードに集める。既定のスタンプ数に達すると景品が1つもらえ、カードに準備した35個の枠全てにスタ

ンプを集めると表彰される。

英語多読スタンブラリーの開催は2014年9月22日(月)から2015年3月31日であった。スタンブラリー参加者は延べ63名、スタンプをためてルカコビスコ、バッジ等の景品を獲得したのは延べ70名(どちらも獲得した参加者は2名として数える)、表彰されたのは3名であった。

多読の主な目的である英語を読むことに対する読者の態度と感情を向上させ、「楽しんで読む」ために、多読に取り組む仲間と出会い、「読書コミュニティ」の感覚を養うためにブッククラブを2014年11月26日に開催した。参加者は多読に取り組んでいる人、多読に興味がある人等、学生、教職員合わせて8名であった。少人数ではあったが、ラウンジの片隅でお茶とお菓子を口にしながら、和やかな雰囲気の中で、英語科教員から多読についての説明とおすすめ本の紹介、そして参加者同士、英語力を向上させる取り組みについて意見交換し、励ましあった。参加者からは、読みたい本を読むために多読用資料の種類を増やしてほしい、初心者が読める多読用資料を増やしてほしい、多読を続ける意思を強く保つためにブッククラブを継続開催してほしい等の声が寄せられた。

## V. 学生支援スタッフ

学部生3名が本プログラムの準備と運営に携わった。学生を図書館アルバイトではなく学習支援スタッフとして雇用した目的は3つあった。第一に、アクティブラーニング支援サービス検討の一環として学生による学習支援サービスと人的配置の示唆を得るため。第二に、参加者である仲間の学生を支援することで、学生同士が相互に学びあう関係性が生まれることへの期待。第三に、教職員と学生という関係性では拾いきれない参加学生の反応を支援スタッフから得ることでより効果的なプログラムを作ることであった。

## VI. まとめ

スタンブラリーの参加者の人数、セミナーのアンケートの結果、ブッククラブの雰囲気などから見れば、本プログラムは高い評価を得ており成功裡に終了したといえる。英語を勉強するきっかけとして、また英語で本を読むことに対しての動機付けとして活用されるだけでなく、病院のスタッフ、大学のスタッフ、先生、学生の中の「聖路加コミュニティ」作りの機会としても一役買うこととなった。より多数の学生・教職員に同様の機会を提供するため、今後あらためて実施する価値があると考えられる。その際に改善が必要と考えられる点について、参加者の声からは、ブッククラブが一回限りの実施ではなく複数回を開催してほしい、本の数も増やしてほしい、と

いう意見が寄せられていた。また、学生の参加者が少なかったため、学生に対する参加募集活動については工夫の必要があるであろう。

#### 引用文献

- 1) 理念・運営の基本方針, 聖路加国際病院ホームページ <http://hospital.luke.ac.jp/about/philosophy/index.html>. [2015.8.27]
- 2) 佐藤晋巨, 河合富士美, 松本直子他. (2015). 学修支援サービスおよび空間整備における現状と課題 - 聖路加看護大学における学修支援サービス調査. 聖路加国際大学紀要, 1, 88 - 92.
- 3) Waring, R., & McLean, S. (2015). Exploration of the core and variable dimensions of extensive reading research and pedagogy. *Reading in a Foreign Language*, 27 (1), 160 - 167.
- 4) Nation, P., & Wang, K. (1999). Graded readers and vocabulary. *Reading in a Foreign Language*, 12, 355 - 380.
- 5) Nuttall, C. (2005). *Teaching reading skills in a foreign language*. Oxford, England : Macmillan.
- 6) Mori, S. (2004). Significant motivational predictors of the amount of reading by EFL learners in Japan. *RELC Journal*, 35, 63 - 81.
- 7) Judge, P. (2011). Driven to read : Enthusiastic readers in a Japanese high school's extensive reading program. *Reading in a Foreign Language*, 23 (2), 161 - 186.
- 8) Beglar, D., Hunt, A., & Kite, Y. (2011). The effect of pleasure reading on Japanese university EFL learners' reading rates. *Language Learning*, 62, 665 - 703.
- 9) Huffman, J. (2014). Reading rate gains during a one-semester extensive reading course. *Reading in a Foreign Language*, 26, 17 - 33.
- 10) Breznitz, Z. (1988). Reading performance of first graders : The effects of pictorial distractors. *The Journal of Educational Research*, 82, 47 - 52.
- 11) Elley, W. B. (1991). Acquiring literacy in a second language : The effect of book-based programs. *Language Learning*, 41 (3), 375 - 411.
- 12) Tudor, I., & Hafiz, F. (1989). Extensive reading as a means of input to L2 learning. *Journal of Research in Reading*, 12 (2), 164 - 178.
- 13) Mason, B., & Krashen, S. (1997). Extensive reading in English as a foreign language. *System*, 25, 91 - 102.
- 14) Waring, R., & Takaki, M. (2003). At what rate do learners learn and retain new vocabulary from reading a graded reader? *Reading in a Foreign Language*, 15, 130 - 163.
- 15) Nagy, W. E., Herman, P. A., & Anderson, R. C. (1985). Learning words from context. *Reading Research Quarterly*, 20, 233 - 253.
- 16) Horst, M. (2005). Learning L2 vocabulary through extensive reading : A measurement study. *Canadian Modern Language Review*, 61, 355 - 382.
- 17) Elley, W. B., & Mangubhai, F. (1983). The impact of reading on second language learning. *Reading Research Quarterly*, 19, 53 - 67.
- 18) 英語多読マラソン. 北海道大学附属図書館ホームページ. [http://www.lib.hokudai.ac.jp/support/nitobe/tadoku\\_marathon/](http://www.lib.hokudai.ac.jp/support/nitobe/tadoku_marathon/). [2015.8.26]
- 19) 多読ラリー てくてく English. 神戸学院大学ホームページ. [http://opac.kobegakuin.ac.jp/?page\\_id=267](http://opac.kobegakuin.ac.jp/?page_id=267). [2015.8.26]